

20代・30代女性の「不定愁訴」実態調査 報告書

平成23年2月14日

株式会社QLife(キューライフ)

目次

【結論の概要】	2
【調査実施概要】	3
【調査結果の詳細】	5

【結論の概要】

■調査の背景:

女性は、男性より「不定愁訴(ふていしゅうそ)」を訴えることが多いと言われる。不定愁訴は、言葉の認知こそ広がってきたものの、外観や検査データなどで確認できない症状が多いこともあって、本人以外に判りにくく、周囲からは「気持ちが弱いだけだ」など見なされて苦しむ人が少なくない。また、同じ理由で、その実態がつかみにくい。

特に20-30代女性は、労働力として、また子育てなど家庭運営の中心を担う人として、社会的にも重要な役割を果たしていることが多く、この層が周囲から理解を得られないままに不健康な状態に陥っていることは、日本社会ならびに日本経済において大きな損失になっている可能性がある。

そのため、彼女達の不定愁訴の実態確認は極めて必要性が高い。さらに、当事者として彼女達自身がこの問題をどう考えているのかを明らかにすることで、解決策を模索する一助としたい。

なお、厚生労働省は、毎年3月1日から8日までの7日間を、『女性の健康週間』と定めている(2005年に日本産科婦人科学会と日本産科婦人科医会が提唱)。女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するために、国や地方公共団体、関連団体が一体となって、さまざまな活動を展開している。

本調査の実施と結果発表は、この活動の促進にも寄与するものとする。

■主な結論(いずれも20代・30代の女性において):

1. 「不定愁訴(ふていしゅうそ)」という言葉の認知率は33.8%
2. 毎月PMS(月経前症候群)に悩まされる人は23.9%で、この率は20代後半と30代前半層で若干高まる。
3. 50.0%の人が、PMS以外で毎月「不定愁訴」に悩まされている。ほとんどは「月1回程度x1-3日以内」の不調だが、なかには頻度=週1-2回程度だったり、長さ=1週間以上という人もいる。
症状の内容は、「だるい・疲れがとれない」(82.8%)、「イライラする」(60.6%)、「頭痛」(56.5%)など多岐にわたるが、年代別/就業状況別で傾向が若干異なり、例えばフルタイム就業者は無職者より「身体的症状」が多く、無職者の方が「精神的症状」が多い。
4. PMS以外で「不定愁訴」ある人のうち、医師相談経験があるのは20.2%。42.6%は何もせず「我慢する」をメイン対処法としている。
なお、不定愁訴が診療対象であると知らないために受診しない人が28.2%、相談できる医療機関を具体的に知らないために受診しない人が21.1%おり、適切な情報があれば治療を受けられる人が現在の2-3倍に増える可能性がある。
5. 「不定愁訴」が起きると、フルタイム就業者の仕事効率は普段の70%程度に低下する。すなわち、「フルタイム就業女性の約半数(47.9%)において、PMS以外でも、毎月1-3日程度にわたり、平均30%程度の経済損失が発生」している可能性がある。
6. 「不定愁訴は女性に多い」と79.0%が思っており、それは「女性の社会的ハンデ」と66.0%が考えている。これを軽減するには、男性・会社など周囲の理解促進と、「休みを取りやすく」など制度・施設面の改善が有効と考える人が多い。

【調査実施概要】

▼実施主体

株式会社QLife(キューライフ)、Woman Excite

▼実施概要

- (1) 調査名称: 20代・30代女性の「不定愁訴」実態調査
(調査票上の表示は、“なんとなく体調不良の時って、ありますか？アンケート”)
- (2) 調査対象: 全国の20-39歳の女性
(QLife会員だけでなく、外部調査パネルを広く使用)
- (3) 有効回答数: 6,355人
うち、集計には「5歳刻み年代別 × 就業状況別」に割付処理した3,442回答を使用 ※後述
- (4) 調査方法: インターネット調査
- (5) 調査時期: 2010/12/17~2010/12/24

▼集計対象回答者の属性

(1) 性・年代:

	女性	男性	合計	割合
20-24歳	292	0	292	8.5%
25-29歳	816	0	816	23.7%
30-34歳	1,124	0	1,124	32.7%
35-39歳	1,210	0	1,210	35.2%
合計	3,442	集計除外	3,442	100.0%

(2) 就業状況(割付処理):

※全有効回答から、以下の観点で割付処理(ランダム抽出)を行ったものを、集計対象とした。

- a) 「有職者」「無職者」との対比をするため、「フルタイム就業者:完全無職者=1:1」とした
(「アルバイト・パート」「自営業・自由業」は、様々な勤務状態の人が含まれると考えられるため、集計からは除外した)
- b) 年齢による健康状態変化の可能性を考慮して、a)は、総数での「1:1」ではなく、「5歳刻み単位」で「1:1」となるように実施した。

人数	フルタイム 就業	アルバイト・ パート	自営業・自 由業	完全 無職	合計
20-24歳	146	0	0	146	292
25-29歳	408	0	0	408	816
30-34歳	562	0	0	562	1,124
35-39歳	605	0	0	605	1,210
合計	1,721	集計除外	集計除外	1,721	3,442
割合	フルタイム 就業	アルバイト・ パート	自営業・自 由業	完全 無職	合計
20-24歳	4.2%	0.0%	0.0%	4.2%	8.5%
25-29歳	11.9%	0.0%	0.0%	11.9%	23.7%
30-34歳	16.3%	0.0%	0.0%	16.3%	32.7%
35-39歳	17.6%	0.0%	0.0%	17.6%	35.2%
合計	50.0%	集計除外	集計除外	50.0%	100.0%

どの年齢層でも「1:1」

(3) 婚姻状況：

	未婚	既婚	結婚して いない割合	2005年国勢調査 での「未婚率」
20-24歳	263	29	90.1%	89.4%
25-29歳	535	281	65.6%	59.9%
30-34歳	522	602	46.4%	32.6%
35-39歳	540	670	44.6%	18.6%
合計	1,860	1,582	54.0%	NA

前述の割付処理をして形成された集計母集団は、30歳以上において、「結婚していない割合」が全国の未婚率平均よりも高くなった。

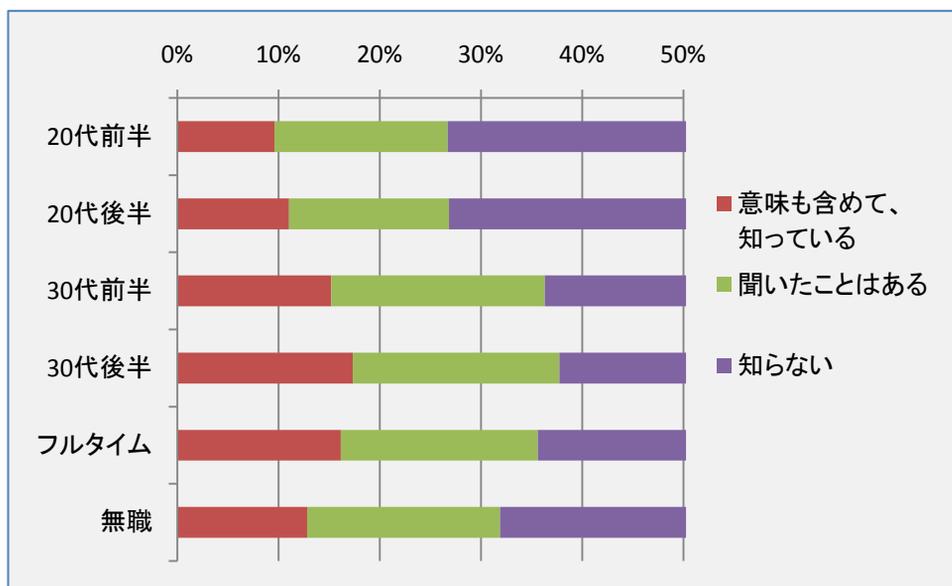
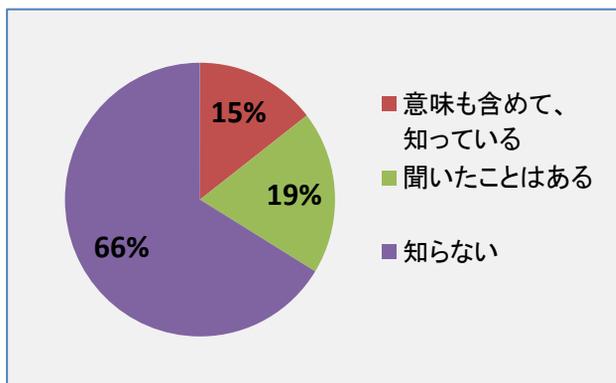
これは、割付処理によって、「フルタイム有職者」が全国平均よりも多く含まれたためと考えられる。

【調査結果の詳細】

1. 「不定愁訴」(ふていしゅうそ)という言葉を知っていますか。

「不定愁訴」という言葉の認知率は33.8%、内容理解率は14.5%であった。これらの比率は、年齢が高まるに伴って上昇し、30代後半では認知率37.8%となる。また、フルタイム就業者の方が無職の人よりも、認知していた。

	認知率		知らない
	理解率		
	意味も含めて、知っている	聞いたことはある	
全体	14.5%	19.3%	66.2%
20代前半	9.6%	17.1%	73.3%
20代後半	11.0%	15.8%	73.2%
30代前半	15.2%	21.1%	63.7%
30代後半	17.4%	20.4%	62.2%
フルタイム	16.2%	19.5%	64.4%
無職	12.8%	19.1%	68.1%



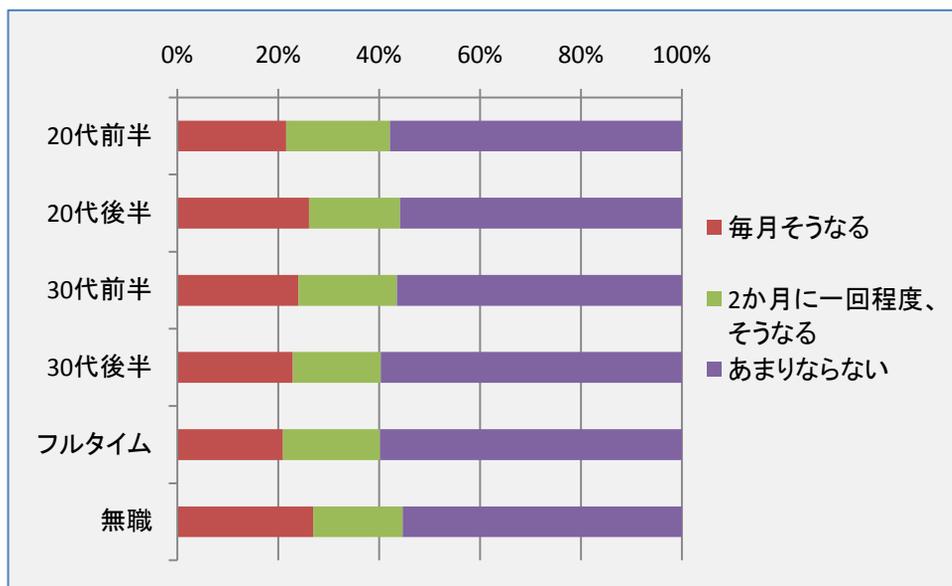
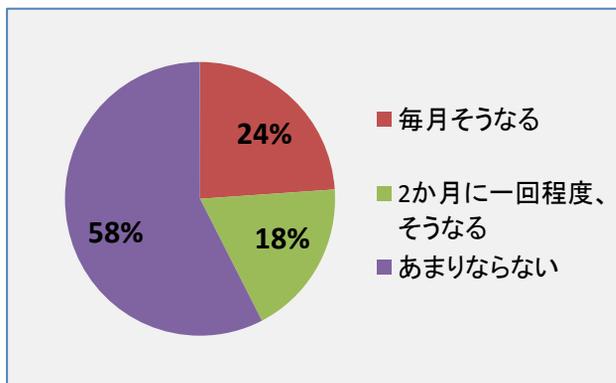
※横軸の最大値は50%

2. 月経が始まる前の時期に、「体調がすぐれず日常生活を順調に送ることができない状態」になることはありますか。一番近いものを選んでください。

「月経前症候群」(げっけいぜんしょうこうぐん、PMS)の状況を訊いた。全体では23.9%が、毎月PMSに悩まされており、その比率は20代後半と30代前半の人に若干多い。

就業状況別では、フルタイム就業者の方が無職の人より率が低い。ただしこの背景としては、PMSの症状が重くてフルタイム就業を諦めた人がいて、結果として「フルタイム就業者」群におけるPMS率が低くなっているという可能性も考えられる。

	毎月そうなる	2か月に一回程度、そうなる	あまりならない
全体	23.9%	18.5%	57.6%
20代前半	21.6%	20.5%	57.9%
20代後半	26.1%	18.0%	55.9%
30代前半	24.0%	19.5%	56.5%
30代後半	22.9%	17.4%	59.7%
フルタイム	20.9%	19.3%	59.8%
無職	26.9%	17.7%	55.4%

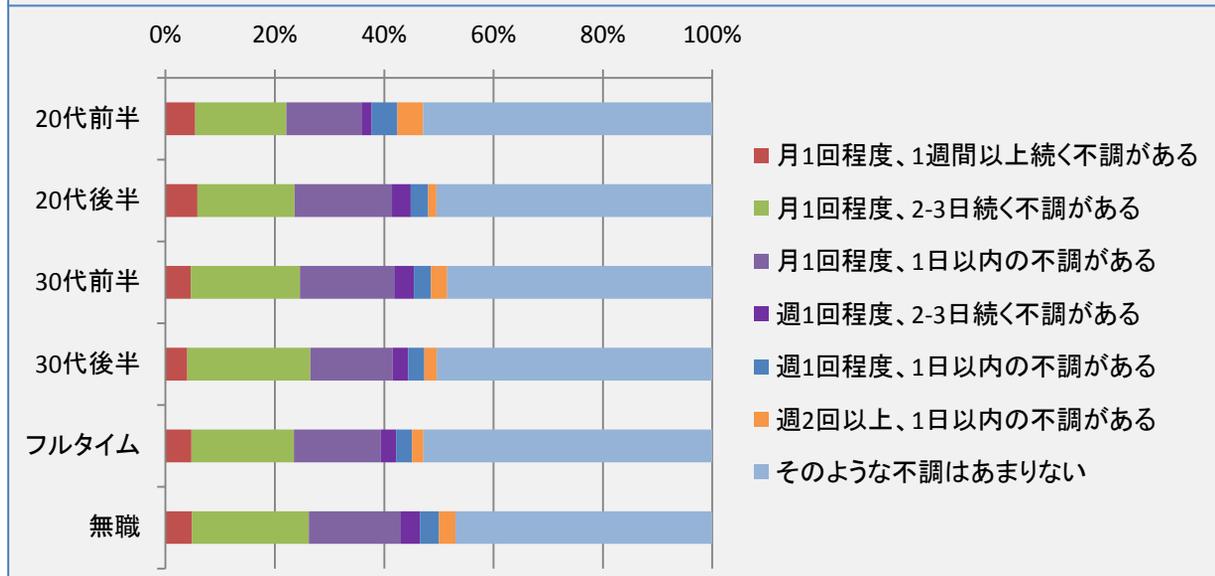
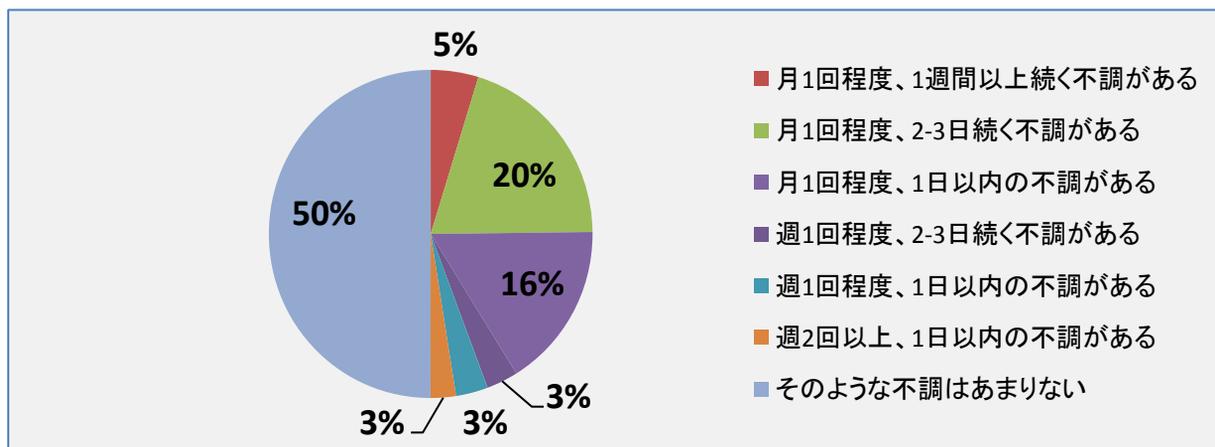


3. 「月経周期とは関係なく」「具体的・深刻な病気が原因ではない」のに、なんとなく体調がすぐれず、日常生活を順調に送ることができない状態、になることがありますか。一番近いものを選んでください。

注：以下の数値は、「現在、深刻な病気にかかっている」(=全体の4.2%)を、母数から除外して集計

PMS以外で毎月「不定愁訴」に悩まされる人が50.0%に及ぶことが分かった(「深刻な病気にかかっている人」を母数に含めた集計では47.9%)。うち36.3%が、「月1回程度x1-3日以内」の不調だが、なかには頻度=週1-2回程度だったり、長さ=1週間以上という人もいる。就業状況別では、フルタイム就業者の方が「PMS以外の不定愁訴」に悩む人は少ないが、これは前問と同じく、症状によってはフルタイム就業が困難で結果として「フルタイム就業者」群における不定愁訴を抱える人の割合が低くなっている可能性が考えられる。

頻度x長さ	月1回程度、1週間以上続く不調がある	月1回程度、2-3日続く不調がある	月1回程度、1日以内の不調がある	週1回程度、2-3日続く不調がある	週1回程度、1日以内の不調がある	週2回以上、1日以内の不調がある	そのような不調はあまりない
全体	4.8%	20.0%	16.3%	3.2%	3.2%	2.5%	50.0%
	41.1%			8.9%			
20代前半	5.4%	16.7%	13.8%	1.8%	4.7%	4.7%	52.9%
20代後半	5.9%	17.7%	17.8%	3.4%	3.2%	1.5%	50.4%
30代前半	4.6%	20.0%	17.2%	3.6%	3.1%	2.9%	48.5%
30代後半	4.0%	22.5%	15.0%	2.9%	3.0%	2.3%	50.4%
フルタイム	4.7%	18.7%	15.8%	2.8%	2.9%	2.1%	52.8%
無職	4.8%	21.4%	16.8%	3.5%	3.5%	3.0%	47.0%

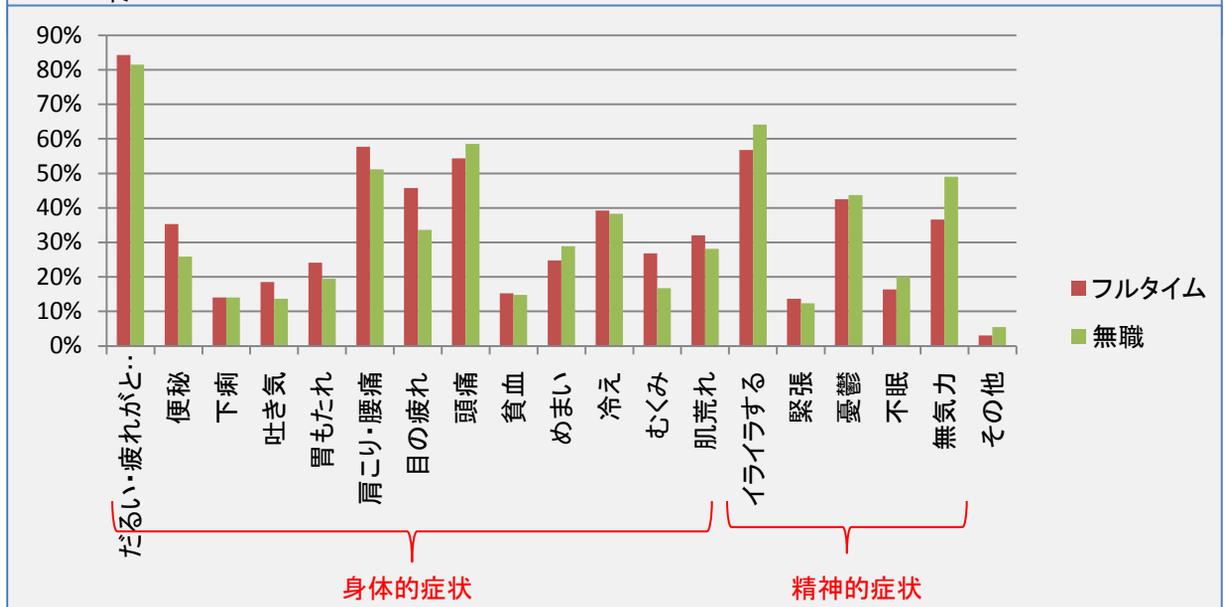
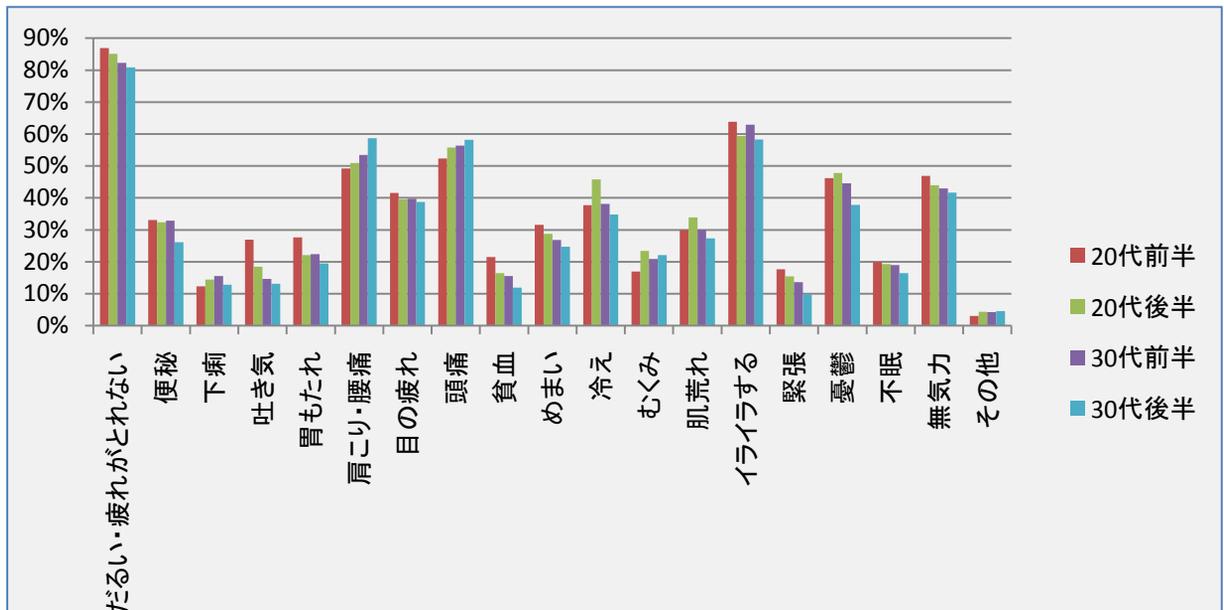


4. <前問で「月経周期と関係ない不定愁訴がある」と回答した人(=全体の47.9%)に質問>
「月経周期とは関係なく」「具体的・深刻な病気が原因ではない」のになんとなく体調がすぐれない時の、症状を教えてください。あてはまるものを全て選んでください。

「月経周期と関係ない不定愁訴がある」人に、症状の内容を訊いたところ、最も多いのが「だるい・疲れがとれない」(82.8%)で、次いで「イライラする」(60.6%)、そして「頭痛」(56.5%)、「肩こり・腰痛」(54.3%)、「憂鬱」(43.1%)、「無気力」(43.1%)が多い。

また、現れる症状には次の傾向がうかがえる。

- 加齢に伴い増加=「肩こり・腰痛」「頭痛」
- 加齢に伴い減少=「だるい・疲れ」「吐き気」「胃もたれ」「目の疲れ」「貧血」「めまい」「緊張」「無気力」
- 有職の方が多い=「頭痛」「めまい」を除く、身体的症状
- 無職の方が多い=精神的症状



5. <前々間で「月経周期と関係ない不定愁訴がある」と回答した人(=全体の47.9%)に質問>
「なんとなく体調がすぐれない」症状を、医師に相談したことがありますか。

「月経周期と関係ない不定愁訴がある」とした人に、その症状を医師に相談するか否かを問うたところ、全体の20.2%しか、相談していなかった。30代の方が20代よりも受診率が低い。

受診率	全体	20代前半	20代後半	30代前半	30代後半
全体	20.2%	26.9%	23.1%	17.9%	18.9%
フルタイム	20.8%	25.7%	23.8%	17.3%	20.7%
無職	19.7%	28.3%	22.4%	18.4%	17.4%



▼「医師に相談しない」理由:

「医師に相談しない」と回答した人に、その理由を訊いたところ、次の通りであった。

★印の合計すなわち「不定愁訴を相談できる医療機関が分からないから受診しない人」、は21.1%であった。これに、☆印の合計すなわち「不定愁訴は、診療の対象であると考えていないから受診しない人」、を加えると49.3%に上る。つまり、「現在の受診経験者20.2%」と比べて、同数近い16.8%(=未受診者79.8%×21.1%)、ないし2倍の39.3%(=未受診者79.8%×49.3%)が、適切な情報がないために受診していない層として存在する。

病気ではない/この程度の理由で病院に行くべきでない ☆	18.0%
しばらくすれば治る	16.2%
症状が軽い	10.5%
面倒/体調悪い時には動きたくない	9.0%
どうせ解決しない/「どこも悪くない」「気のせい」と言われる/相手にしてくれないと思う ★	8.6%
時間がない/忙しい/休みを取れない	8.3%
お金がかかる/金銭的余裕がない	6.0%
何科に行けば良いか分からない ★	5.6%
症状を説明しにくい/どう相談すればよいか分からない ★	5.6%
自分で原因が分かっている/ただの疲れ ☆	5.3%
病院嫌い/薬が嫌い/精神疾患と診断されたくない ☆	4.9%
いつものこと/慣れている	2.6%
市販薬で治る/寝れば治る/マッサージ等で治る	1.9%
かかりつけ医がない/気軽に相談できる医師がない ★	1.1%
その他	2.6%
なんとなく/機会がない/特に理由はない	3.8%
合計	110.2%
★印の合計	21.1%
☆印の合計	28.2%

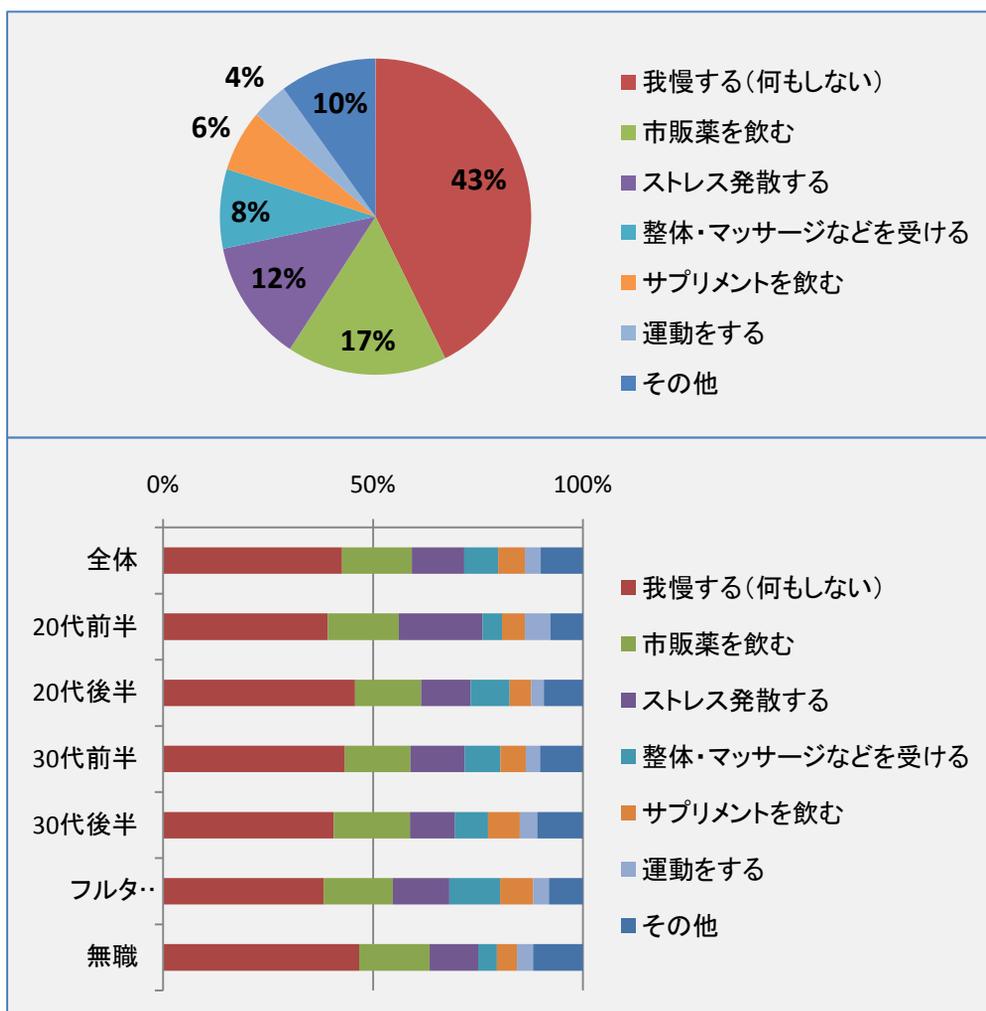
※自由記入内容を読み取って分類。重複集計のため合計は100%超。

5. <3問前で「月経周期と関係ない不定愁訴がある」と回答した人(=全体の47.9%)に質問>
「なんとなく体調がすぐれない」時に、あなたはどうか対処しますか。メインの対処法を教えてください。(「医師に相談」「休息を取る」は除く)

「月経周期と関係ない不定愁訴がある」とした人に、医療機関受診や休息以外のメイン対処法を訊いたところ、42.6%が「我慢する(何もしない)」と回答した。

年代別にみると、20代前半が、他年代に比べて「運動する」「ストレス発散」が多い。また就業状況別では、フルタイム就業者は「サプリメント」「整体・マッサージなど」をメイン対処法とする人が無職よりも多く、可処分所得差のほか、無職の人よりも身体的症状に悩む人が多い(参照:8ページ)ことが影響しているのかもしれない。

	我慢する (何もしない)	市販薬を飲む	ストレス発散する	整体・マッサージなどを受ける	サプリメントを飲む	運動をする	その他
全体	42.6%	16.6%	12.5%	8.1%	6.3%	3.8%	10.0%
20代前半	39.2%	16.9%	20.0%	4.6%	5.4%	6.2%	7.7%
20代後半	45.8%	15.7%	11.8%	9.3%	5.1%	3.1%	9.3%
30代前半	43.3%	15.6%	13.1%	8.4%	6.1%	3.4%	10.2%
30代後半	40.6%	18.2%	10.7%	7.9%	7.5%	4.2%	10.9%
フルタイム	38.2%	16.5%	13.5%	12.1%	7.9%	3.8%	8.1%
無職	46.7%	16.7%	11.6%	4.4%	4.8%	3.9%	11.8%

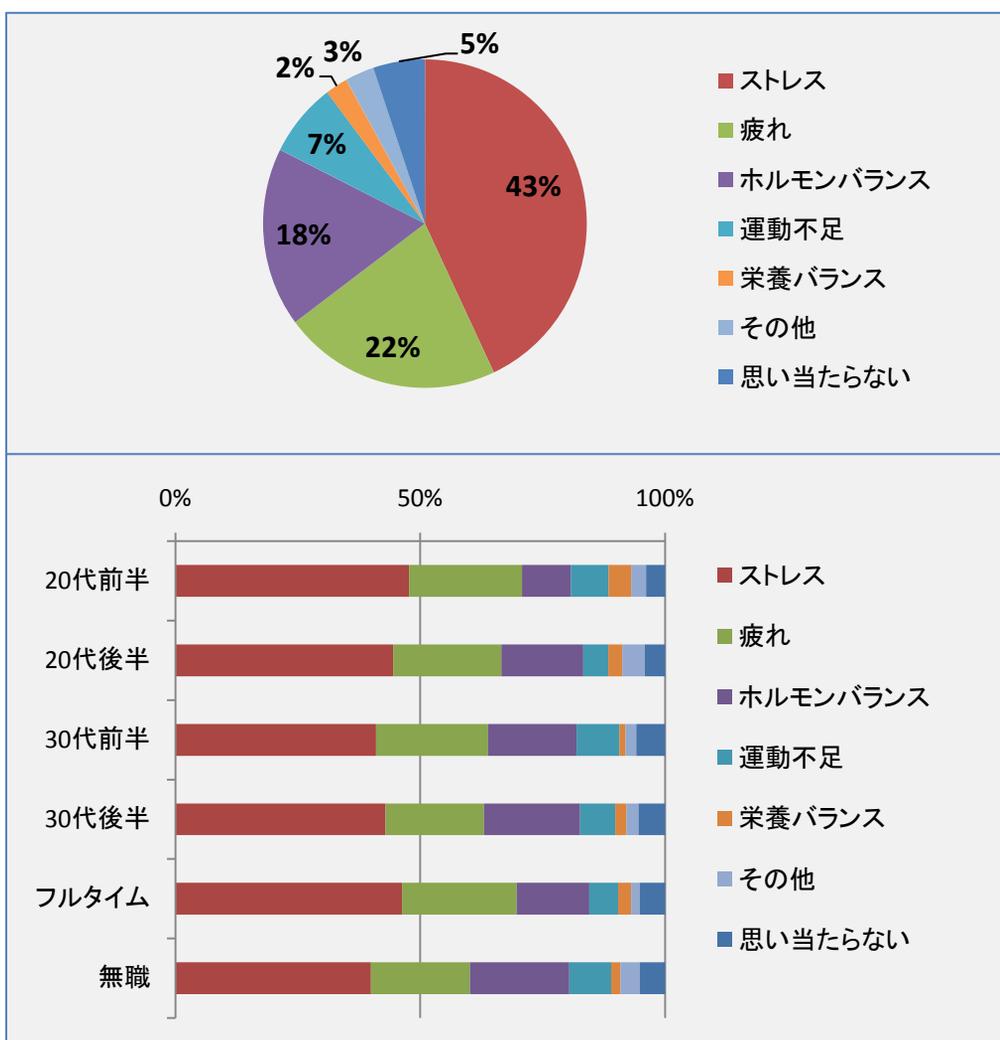


6. <4問前で「月経周期と関係ない不定愁訴がある」と回答した人(=全体の47.9%)に質問>
「なんとなく体調がすぐれない」ことが起きるのはなぜでしょう。あなたの場合に、最も大きな原因と思われるものを選んでください。

「月経周期と関係ない不定愁訴」の原因を何だと考えているか訊いた。最も多かったのが「ストレス」(43.0%)で、次いで「疲れ」(21.8%)であった。

年代別では、年齢が高まるに伴い「ストレス」起因と考える人が減り、逆に「ホルモンバランス」は増える傾向にある。就業状況別では、フルタイム就業者は「ストレス」に帰す人が無職者よりも多く、46.3%に上る。

	ストレス	疲れ	ホルモンバランス	運動不足	栄養バランス	その他	思い当たらない
全体	43.0%	21.8%	17.6%	7.3%	2.2%	2.9%	5.2%
20代前半	47.7%	23.1%	10.0%	7.7%	4.6%	3.1%	3.8%
20代後半	44.5%	22.1%	16.7%	5.1%	2.8%	4.6%	4.1%
30代前半	41.0%	22.9%	18.1%	8.8%	1.3%	2.1%	5.9%
30代後半	42.9%	20.1%	19.6%	7.2%	2.3%	2.5%	5.4%
フルタイム	46.3%	23.4%	14.8%	5.9%	2.6%	1.8%	5.2%
無職	39.9%	20.3%	20.3%	8.5%	1.9%	4.0%	5.2%



**7. <5問前で「月経周期と関係ない不定愁訴がある」と回答した人(=全体の47.9%)に質問>
「なんとなく体調がすぐれない」ときに、あなたの仕事の効率はどうなりますか。感覚値で結構ですから、一番近いものを選んでください。**

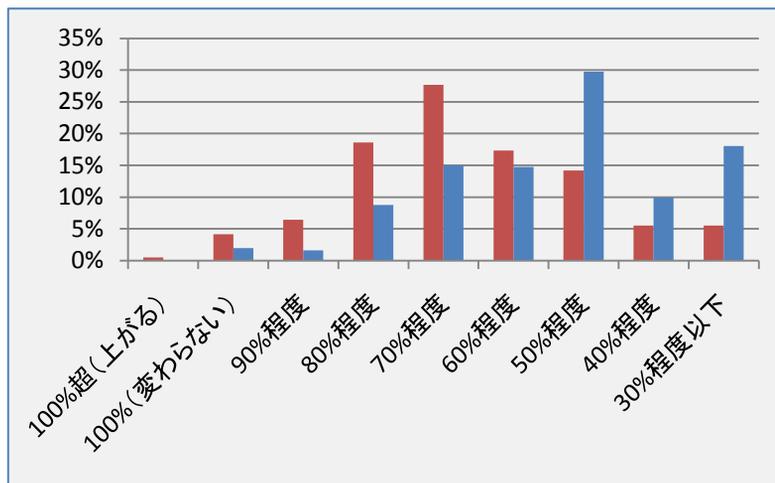
「月経周期と関係ない不定愁訴」を抱えた時に、仕事効率がどう変化するかを訊いた。

無職の人は回答が分散したが、フルタイム就業者では「普段の70%程度」を中央値として山なりに分布した。すなわち、「フルタイム就業している女性の約半数(47.9%)において、PMS以外でも、毎月1-3日程度にわたり※、平均30%程度の経済損失が発生」している可能性がある。

※一部の人は毎週。7ページ参照。

	100%超 (上がる)	100%(変 わらない)	90%程度	80%程度	70%程度	60%程度	50%程度	40%程度	30%程度 以下
フルタイム	0.5%	4.2%	6.4%	18.6%	27.7%	17.4%	14.2%	5.5%	5.5%
無職	0.1%	2.0%	1.6%	8.8%	15.0%	14.8%	29.7%	10.0%	18.0%

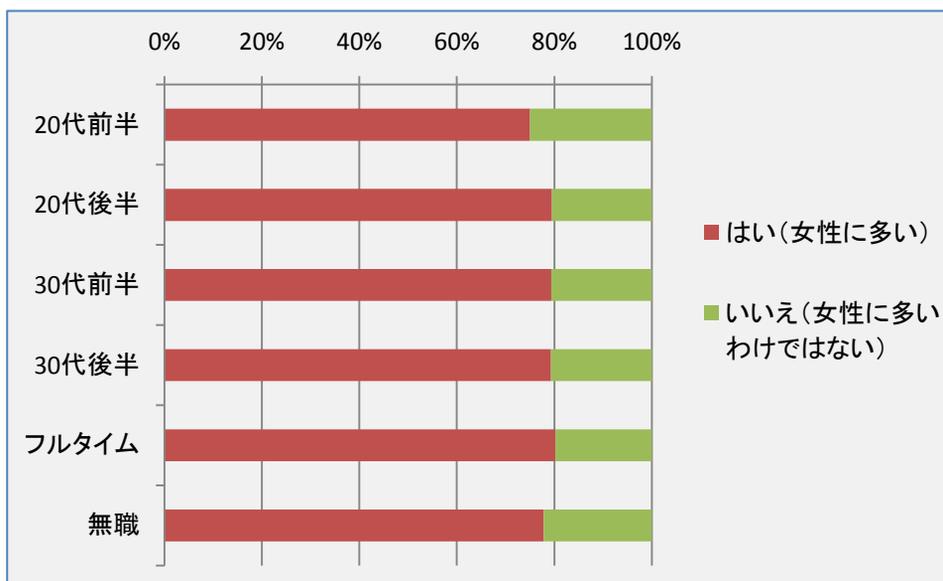
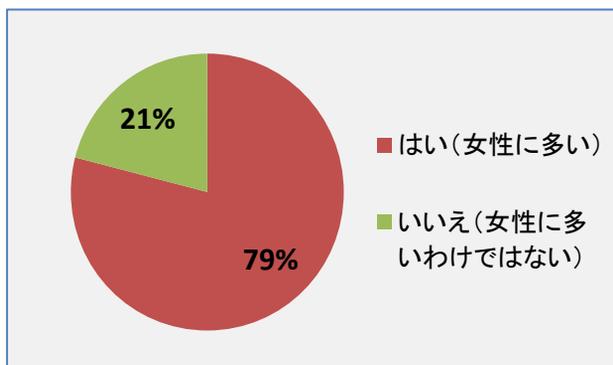
注: 調査票上の実際の選択肢では、「効率は普段の100%超(上がる)」「効率は普段の100%(変わらない)」「効率は普段の90%程度になる」などの表現を用いた



8. 「なんとなく体調がすぐれない」ことが起きるのは、男性よりも女性に多いと思いますか。

不定愁訴を抱えることが、男性よりも女性に多いと思う人が、全体の79.0%であった。この比率は、年代や就業状況に関係なくほぼ同一であった。

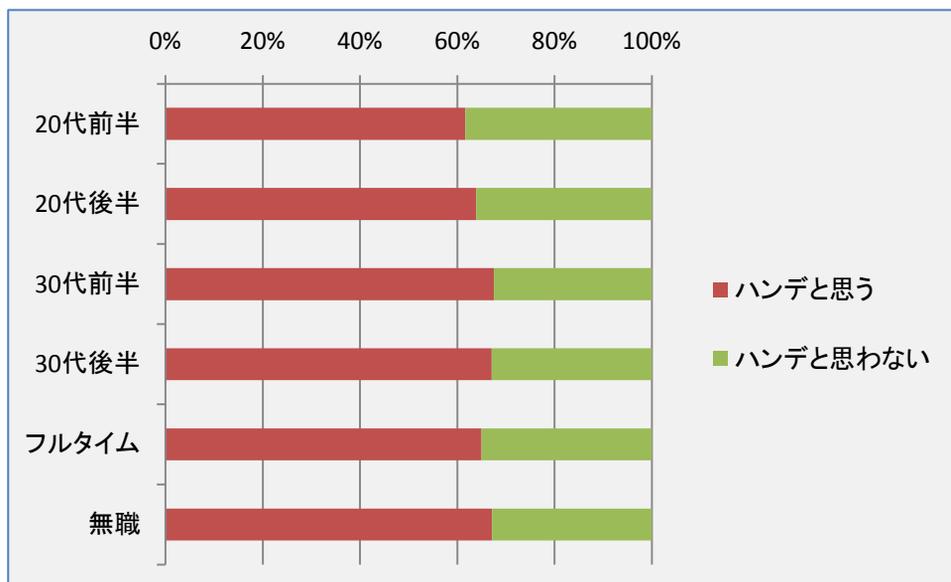
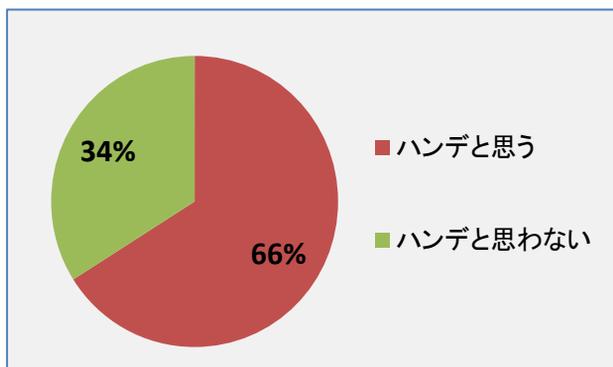
	はい(女性に多い)	いいえ(女性に多いわけではない)
全体	79.0%	21.0%
20代前半	75.0%	25.0%
20代後半	79.5%	20.5%
30代前半	79.4%	20.6%
30代後半	79.3%	20.7%
フルタイム	80.2%	19.8%
無職	77.8%	22.2%



9. <前問で「女性の方が不定愁訴が起きやすい」と回答した人(=全体の79.0%)に質問>
「なんとなく体調がすぐれない」ことが起きやすいのは、女性の社会的ハンデだと思いますか。

「女性の方が不定愁訴を抱えることが多い」と考えている人のうち、それを「女性にとって社会的なハンディキャップ」と考えているのは66.0%に上った。この比率は、年代別、就業状況別によって大きな違いがなかった。

	ハンデと思う	ハンデと思わない
全体	66.0%	34.0%
20代前半	61.6%	38.4%
20代後半	63.8%	36.1%
30代前半	67.5%	32.5%
30代後半	67.1%	32.9%
フルタイム	65.0%	35.0%
無職	67.1%	32.9%



10. <「女性の方が不定愁訴が起きやすく、それは女性の社会的ハンデ」と回答した人(=全体の52.1%)に質問> その「社会的ハンデ」を軽減するには、どうしたら良いと思いますか。あなたが「実現可能」と思う具体的な要望・対策を教えてください。

「女性には不定愁訴が起きやすいという社会的ハンデ」(があると考える人に、その)軽減提案を訊いた。回答の大半を占めたのは、「男性が理解」「会社が理解」「メディアや当局が社会に周知」という周囲理解促進と、「休みを取りやすく」を主とする制度・施設対策であった。ただし、「本人の対策不足」とする声や、「我慢するしかない」「あきらめる」「対策は無理」といった回答も、少数ながら散見された。

▼「周囲の理解促進を」の回答例

28歳	フルタイム	未婚	男性と女性は違う物。もっと様々なハンデがあるなか、頑張っている人たちもいるわけで、「こういうつらいことがあるから対策を作って！」というのわがままと思う。だから純粋に男性にもっと女性の体を知ってもらうほかない。メディアなどでそうした症状の実態を知ってもらうほかない。男性や社会が、実際に優しくなれるかどうかは別問題として。
29歳	無職	未婚	男性女性に関わらずですが、体調不良は伝わらないので理解できなくとも批判しないでいただきたいです。休むことは悪いことではないという理解が必要だと思います。
32歳	無職	未婚	個人差がある事なので…自分では「生理痛」や「女性特有の不調」というものを感じたことが無いので、男性にとっては更に理解しにくい事と思います。まずは、男性女性の問題でなく周知してもらおうのが大事ではないでしょうか。
24歳	無職	未婚	私はこういった症状が起きた時には自分でなんとかしなければいけないんだと思っていて、体を動かしたり、ストレスを発散したりを心がけています。でも身近にいる人にもっと分かってもらえるように自分から話をしていく事も大事だなあと思いました。それと同時にもっとこういった病気や症状を周りも認知できるような社会的な取り組み(例えばTVや新聞などの情報)が必要。
32歳	フルタイム	未婚	生理前や生理日に休暇を取りやすい社会になればよいのですが、自分の周囲でも、生理が重い女性職員に対して男性職員から「これだから女は…」といった見方をされることが多いのが事実です。生理が重く、月に1度生理休暇を取っている友人が、そのために昇進が遅くなっていると聞いたこともあります。女性のからだの仕組みについて男性がきちんと学び、異性に対する敬意を持てるような機会を、幼少時に設けてほしいと思います。

▼「制度・施設などの面でも対策を」の回答例

36歳	フルタイム	未婚	体調管理をしやすい職場作りが必要。生理痛で休むはめになっても「生理痛なので」と言って休めず、「体調が悪いので」と言って休む=健康管理ができていない人という評価になるので、なかなか休めず気合で出勤。生理で休みますっていうのが恥ずかしくないようになってほしい。生理休暇の名前を変えて「女性特別休暇」みたいにして。
30歳	無職	既婚	体の不調なので、最低でも時間休をとりやすい環境が整ってほしい。病院へ行ったり薬局で薬を買うことができる時間があれば、ずいぶんかわるのではないかな。
36歳	無職	未婚	女性特有の病気で通院した場合、保険とは別で何割かの援助を受けられるようにする。
36歳	フルタイム	既婚	生理休暇などを、社員でも派遣でも、必ず企業で取らないといけないなどを法律として取り決める。
39歳	無職	既婚	フレックスタイムやSOHOなど、働く時間や形態をもっと充実させるべき。無条件で預かってもらえる公的な一時預かりの託児所なども、あるととても精神的に助かります。
29歳	フルタイム	未婚	女性には月経時やホルモンバランスなどが関係し、体調を崩す事が多いという事を男性も女性も理解するべき。 企業によっては生理休暇などを設けているところもあるが、実際そのようなダイレクトな休暇名だと使う事がためられるので、男性も女性も月に1、2度有給休暇とは別に特別休暇という名で休暇を取れるような体制が望ましい。

▼「本人が自分で対策を」の回答例

29歳	フルタイム	既婚	自身の体のことを知らな過ぎる女性が多い。漢方など治療法もいろいろあるから試してみるべき。
37歳	無職	既婚	きちんと病院にかかって治療するべきだと思う。周りに迷惑をかける状態では、社会的ハンデを負っても仕方ないと思う。
24歳	フルタイム	未婚	自分で自分の体調を理解してうまく付き合うのが一番。人間何かしら小さなハンデを抱えたりしているものだろうし、そんなものに付き合いきれない。女性だから必ずしもハンデを抱えているわけでもないのだから、やはり自分で折り合いをつけてもらうのが一番だと思う。

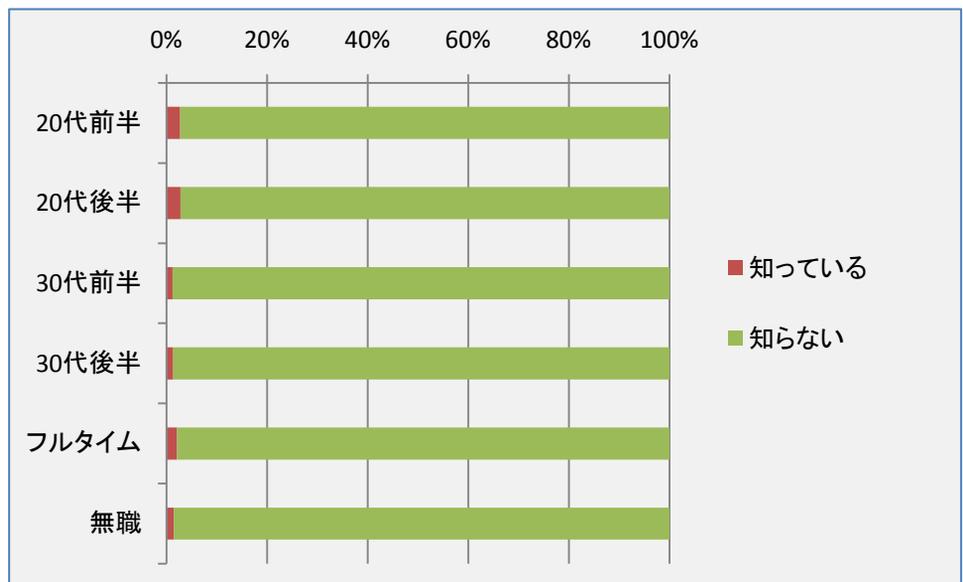
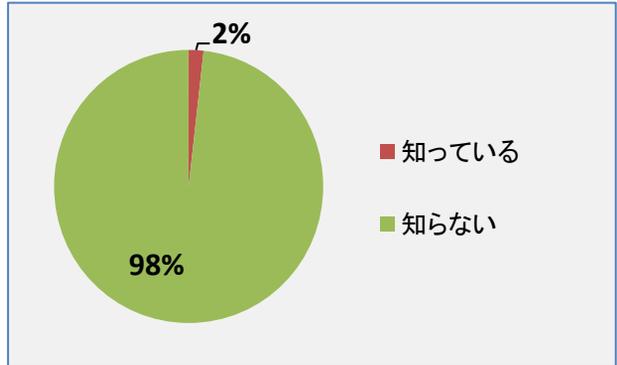
▼「軽減策はない」の回答例

28歳	無職	未婚	解決策は思い浮かびません。そんな事で仕事を休んだりできる制度は絶対できないだろうし。
35歳	フルタイム	未婚	社会的ハンデだと思う一方で、会社の立場からすればそれを理由に休まれたりするの困るというのわかるので、難しい。
33歳	フルタイム	未婚	えー！もともと身体の作りが違うんだから。生理休暇とか制度としてあっても絶対取れないし。

11. 毎年3月1日から3月8日までが「女性の健康週間」として定められているのを、あなたをご存知ですか。

厚生労働省は、毎月3月1日から3月8日までの7日間を「女性の健康週間」と定めて、女性の健康づくりを国民運動として展開するとしている。この「女性の健康週間」の認知度を確認したところ、全体の1.8%に留まっていた。

	知っている	知らない
全体	1.8%	98.2%
20代前半	2.7%	97.3%
20代後半	2.8%	97.2%
30代前半	1.2%	98.8%
30代後半	1.3%	98.7%
フルタイム	2.1%	97.9%
無職	1.5%	98.5%



本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
